

「唐丹希望基金」の価値ある生き方

唐丹希望基金代表 高館 千枝子

2011年3月11日東日本大震災から9年。今、その活動の終わりを迎えようとしています。
私は4月1日に古希を迎えます。

1983年夏、私は、仕事と子育て、家事の両立に悩み、大切な人生を混沌としたまま終わることへの不安を感じ、歩むべき方向を見失いかけていた時、渡欧のチャンスに恵まれ、自分探しの旅「ノルウェー10日間の旅」に出かけました。ある日、訪問先のフォルケ・ホイ・スコーレのホールに展示していた数枚の絵の説明を聞いていた時のことです。“人のあるべき姿”を表わした絵画「オ・リーバ」(生きること)の姿を数枚の絵画に描かれて展示されていました。その時、ある一枚の絵の前で立ち止まり見入ってしまいました。私が求めていた“真に生きる姿”を、この絵の中に見出したのでした。「オ・リーバ」(生きること)は、ノルウェーの賛美歌として多くの国民の愛唱歌として広く歌われていることも、この時、初めて知った事でした。

「生きる事、それは あなたの一生の中で、

一番価値あるものを獲得することである。」

不思議な事に「オ・リーバ」(生きること)の説明を聞いていると、涙が自然に流れて、それを抑える事ができませんでした。「自分探しのノルウェーの旅」で、“真に価値ある生き方”を知った瞬間でした。この気持ちをノルウェー滞在最後の夜、お世話くださったオースル・ランデ氏に打ち明けた時、私の言葉にうなずきながら静かに聞いてくださり、一年後、家族5人から届いた“テープメッセージ”の中に息子のオースル・アイビンさんが朗読する詩「オ・リーバ」を聞いたとき、私の思いを受け止め、見守っていて下さっている感謝に包まれました。(『みちびきの旅』1984年)

それ以来「私の人生の、価値ある生き方とは何なのか」を探す“心の旅”が始まりましたが、現実には、仕事や育児、家事に追われる日々で、いつの間にかその気持ちも薄れ、それほど深く考える余裕もなく退職まで過ごしました。再び、あの時の言葉に向き合ったのは、55歳で職場を退職し、残された時間の過ごし方を真剣に考えていた時、ノルウェーのフォルケ・ホイ・スコーレで知った「オ・リーバ」が甦ってきたのです。私らしい“価値ある生き方”とは何だろうかと模索していた丁度その時、東日本大震災が起きました。わずかな縁にすぎるようにして、1年計画で「東日本大震災教育支援プロジェクト」を立ち上げました。この後、9年間続ける事になったのですが、その第一の理由は、東日本大震災の被害の膨大さが、支援を断ち切る気持ちにさせなかった事でした。未曾有の災害は人々に共生、共存の精神を芽生えさせ、被災者に直接届く、目に見える様々な行動を、世界中の人々が起こし始め、止むことがありませんでした。

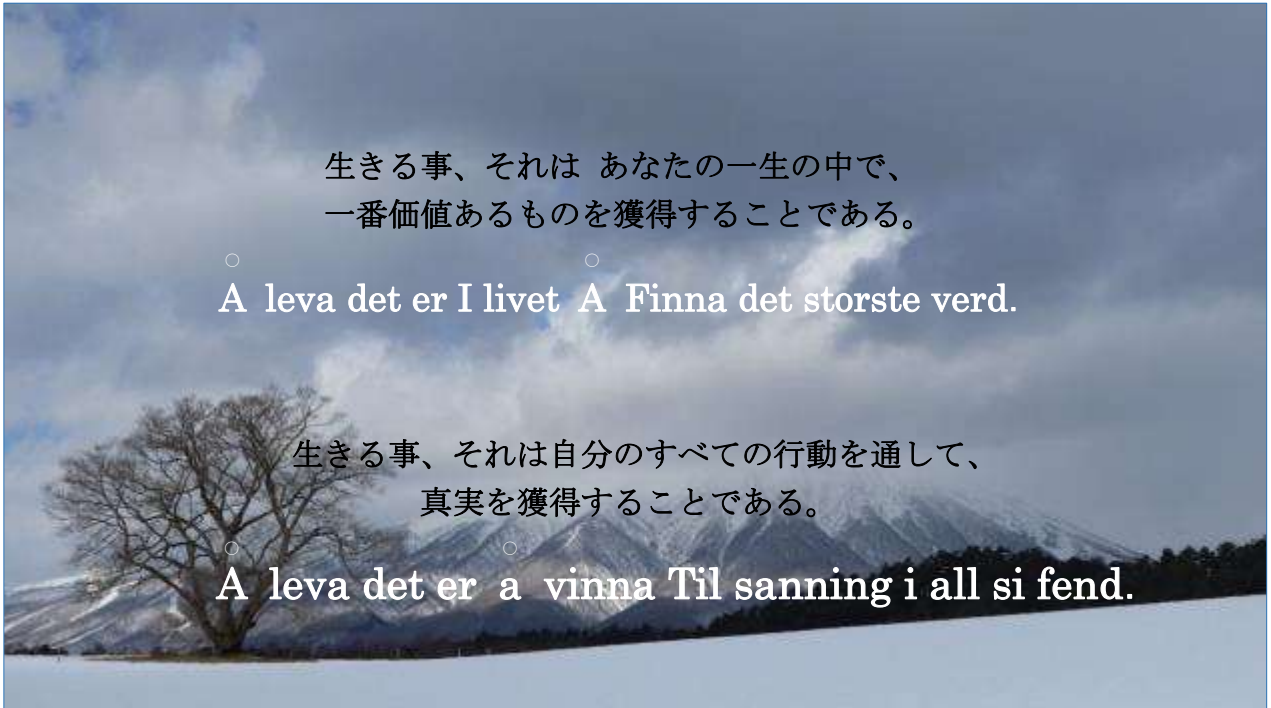
すべてを失った沿岸地区の人たちの心境を思うと、自分の行動は本当に役に立つ行動として受け入れられるだろうかと不安でしたが、ほかに良い方法を見出すこともできず、集まった募金を黙々と届ける事だけが、唯一、私にできる行動でした。私は、募金を被災地に届ける為に、すべての時間と労力を費やしても足りない程、必死でした。こうすることで、私自身の心を安定させ、苦しみから救う唯一の方法だったからです。迷いと複雑な気持ちを抱えながらも、募金に寄せられた支援者の言葉に慰められながら、なんとかか過ぎしましたが、この拠り所のない気持ちを救ってくれた一番の要因は“**唐丹の子供たちの成長の姿**”と、唐丹希望基金の「**2011年4月就学児童が中学校卒業まで支援しましょう!**」の合言葉でした。

学習発表会では、学年が上がる毎に内容に深みが出て、素晴らしい発表でした。特に、5、6年生の演劇は素晴らしく“戦時中に受けた二度の釜石艦砲射撃の歴史と平和の尊さ”を子供達へ伝え続けようとする先生たちの思いの強さと、度々襲われる津波に立ち向かう逞しい姿とが重なり「**できるだけ長く応援していかなければ…**」と決意を新たにしました。先生達の情熱が子供たちの心に克明に伝わり、日々練習に励んだ事が、ステージの子供たちの姿から伝わってくるのでした。

「唐丹希望基金」は、2020年3月末で解散しますが、昨年頃から多くの方たちから9年の絆を絶やさず、この先も繋がっていききたいという声が頻繁に届くようになりました。私はその方達と一緒に子供たちの成長を見守り続けながら、この先を歩みます。今までのような、大々的な募金活動は出来ないと思いますが、引き続き唐丹の子供たちを見守って下さる方、そして、新しく仲間入りして下さる方達と一緒に再出発する覚悟です。唐丹希望基金はこの先も、お互いの心の声に響き合い、その声に耳を傾け、教え合い、学び合う交流の中で“鎮魂と平和を願う者”に相応しい豊かな交流を続けていきたいと願っています。今後も事務局（兼代表）を引き受けさせていただきます。

【寄せられた募金の使い道をこのように考えています。(案)】

- 1、5月大運動会、10月文化祭、3月唐丹中学校卒業式への参加。
- 2、「卒業アルバム支援」を2023年3月唐丹中学校卒業生から行う。
- 3、卒業式の「お祝いの紅白餅」、クリスマスケーキを贈る。
- 4、ハソウを2022年3月唐丹中学校卒業生まで贈呈する。



生きる事、それは あなたの一生の中で、
一番価値あるものを獲得することである。

A leva det er I livet A Finna det største verd.

生きる事、それは自分のすべての行動を通して、
真実を獲得することである。

A leva det er a vinna Til sanning i all si fend.